

# Higashiyoka Junior High School

**A面**

# オカシ来。

# This is School

公開授業『学び合い』

1月19日(日)、北は北海道、南は宮崎から、東与賀中を訪れた先生の数はざっと1500名。どこの学校も成し遂げることができなかった学校『学び合い』に参観者は驚くばかりであると同時に、そのメカニズムに関心を寄せていた。

午後の生徒会本部によるプレゼンは、厳しい質問にもなんなく回答する代表の生徒たち。1500名は感心していた。

■佐賀県で最先端の学びを展開している中学校だと思っています。皆さんの姿を、他の中学生、小学生に見せたいと思いました。

「みんな」を大切にして、このまま力をつけていってください！

■子どもたちが課題に向けてみんなで理解しようとする子どもたち

の姿勢が素晴らしいいなと感じました！お疲れ様でした！

■貴重な授業公開をありがとうございました。

私は、平成20年頃から始めましたので、感慨深く参観させていただきました。

教師の生徒を見取る力、言葉の使い方、目

標設定が今後を左右すると思います。  
 私も自分の立場で出来ることを進め、共に高まっていきたいと思っています。  
 ありがとございまして。  
 ■積極的に周りのみんなと一緒に考え、話合って課題に取り組んでいる姿は、とても前

参観者アンケート

♡ 100万いいね！

標設定が今後を左右すると思います。

私も自分の立場で出  
来ることを進め、共に  
高まつていきたいと思  
います。

から考えることができ、大変有意義でした。生徒会役員の皆さんとのコミュニケーション能力はとても高いものだと思いました。3年間の「学び合い」の成果でもあるでしょう。東与賀中生としての自身や誇りも、皆さんの姿から感じました。

■あなたち、すごい！こんなに

3年生の異教科学び合いも自然に二つの課題に取り組んでいて、同時に2つも考えるのは混乱しないのかしらと心配していたのですが、しっかり説明していたのがよかったです。

『学び合い』をしながら、自分だけでなく周りも大切にしてる。確かに自分を高めてると思います。大人になるころが楽しみです……

午後のプレゼンも大人顔負けの堂々たる姿がよかったです。2年生をゆつくり見る時間がなくて残念でした。

社会に出たころ、あなたたちと話してみたいです。

■自分の言葉で話すことが、しつかりできていたことにびっくりしました。

■3年生の理科 数字の授業は感心しました！クラス等の垣根を全く感せず、分かりたい！の熱意が凄く伝わってきました！

また、授業の中でアドバイスを求めることもできていました。

■学校全体で学び合いを進めていこうとする取り組みが素晴らしいと感じました！

を動かされたのは、日々の学習を通じて自分たちの課題や改善点を掌握していることでした。これら

ケーシヨン、誰一人取り残さない、素晴らしかったです。

への取組を推進してさらに皆んなが大きく成長していくのだろーと感じ頼もしかったです。

今後もがんばってください。

■皆さんが「自分たちで」学ぶ姿を見て、中学生の「可能性」を感じました。佐賀まで行った甲斐がありました。

■先生方お疲れ様でした。素晴らしい実践をありがとうございました。私も学び合いを参考に授業に取り組んでいこうと

りました。ありがとうございました。

思います。

東京からTB  
Sが取材。報道関係は以前から『学び合い』にフォーカス、その理由として、いじめや不登校問題に具体的に対応した授業であるということ、また、個別最適化授業はこうあるはずと考えているらしい。





# Higashiyoka Junior High School

B面

よかスポ

This is School

11/19 (日)

## 公開授業『学び合い』

■授業を見させていただき、ありがとうございます。準備と日々の授業後の指導の大切さを感じました。

■1の2の道徳の授業で、『学び合い』の姿をつかむことができたように思います。

2の2の国語の授業は、生徒が集中して取り組んでいて、学び合いの土壌ができていたことを感じました。さらに、今日の授業で生徒が何を目標していたのかをお尋ねしたかったです。

■本当に素晴らしい発表を見せて頂き、ありがとうございました！

先生方のまっすぐな思いや、子どもを思う気持ちが、すぐ伝わってきて、少しも取りこぼしたくなくて、必死で見て回らせていただきました。

■本校に持帰り、しっかりと伝え、さらに『学び合い』を進めて行きたいと思っております。

■本日はステキな時間を頂き、ありがとうございます！

■本日はありがとうございます。先生達の始めの話の少なさにびっくりしました。

■異教科合同授業のメリットについて疑問だったのですが、生徒会の話聞いて、納得しました。

■異学年合同も見てみたいですね！

■『学び合い』の普通の授業からの取り組みを見ることができ大変参考になりました。

■小学校ですが、さまざまな場面で活かせることを考えていきます。ありがとうございます。

■子どもたちの本音にすべてが集約されていきました。今では良さを自分の言葉で語り、かつ課題から次への手立てを考えて提案できる子どもたちが育っていることが、東与賀中の研究紀

要です。最強の職員集団だと感じました。

■公開をしてくださった先生方お一人お一人に、心から敬意と感謝の気持ちを伝えたいと思います。生徒の姿と学校全体の雰囲気、誰もが安心して吸える空気感がありました。こんなに充実感を持って帰る研究会はないと思います。参加した坂下先生の講座は秀逸でした。こんな講義は受けたことがなく本当に勉強になりました。

一日中が大変勉強になった素晴らしい日曜日でした。ありがとうございます。

■学校を挙げて何かに取り組むことは、容易いことではなかったと拝察します。また、『学び合い』は我々教員がかつて必死で磨き続けてきた『分かれやすく教える』『面白く伝える』ことをある意味で手放すこと、と感じました。自分ならこれらを手放すことに相

当な勇気が必要です。実践を進めてこられた先生方に敬意を表します。公開日当日はもちろん、それまでの準備など、本当にありがとうございます。

■全校で同じ方向を向いて取り組まれているのが羨ましかったです。先生方の笑顔と子どもたちの生き生きとした姿に元気をもらいました。あそこまで主体的に動くようになるためにどんな取り組みや声かけをされたのか東与賀中の先生方のお話も聞きたかったです。

よい機会をいただき本当にありがとうございます。

■『学び合い』を参観させていただき、ありがとうございます。

■異教科学び合いを参観して、こんな授業が日常になればいいのになと思いました。

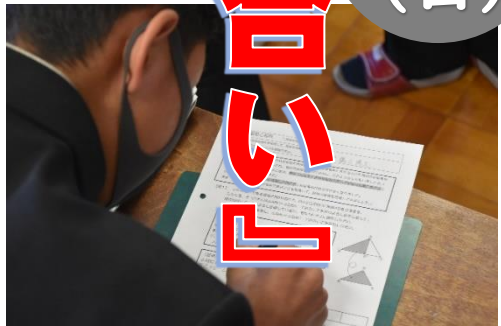
■勉強になることばかりでした。月1開催してほしいです。ありがとうございます。

■2年社会の授業ありがとうございます。

■エネルギー利用のところで、中部と東北をまとめて扱う授業は面白いと思いました。技術ともコラボできると、面白いですね。自分などの立場、地元が、九州か、とかや、比較で重視した視点(コスパか安全性か)を持続可能性か心を、明確にして、一度互いに意見交換する。その後、再構築して清書、提出とする手もあるかな、と思いました。

■佐賀の東与賀中の『学び合い』公開授業講演ワークショップへ参加しました。お久しぶり、はじめまして、先月ぶりなど再会を楽しんだあとは、授業見学。岡山の先輩のアドバイスを受け、同時に複数の授業を見ながら、生徒たちがどのような課題でどのように学ぶか、「なぜそのような行動をしているのか」

■「教師は何をすればいいか」を考えました。要は「見取り」です。その後、素晴らしい指導主事の方の講演で、生徒のみなさんの生の声を聞き、私が担当するワークショップへ。私が過去実践をしてきて、挑戦したこと、失敗したこと、学んだことを盛り盛り100個用意して、時間の許す限り語り抜きました。貞包浩洋校長先生、東与賀中の先生方、ありがとうございます。



■佐賀県の東与賀中へ・・・

■今日は、佐賀県の東与賀中へ、『学び合い』の公開授業、講演、ワークショップへ参加しました。今回の大きな目的は、『学び合い』の授業をライブで参観をして、色々な先生方と『学び合い』について対話することでした。また、学校を挙げて行っているというので、それぞれの授業で、一コマの授業がどのように流れていくのか、教師の発問、声かけ、動き、そして子どもたちの動き、そういうものを体感したかったのです。

■実際に、授業を参観したり、講演会、生徒会による座談会を聞いたり、ワークショップを行うことで、自分の『学び合い』に対する考え方や、それをどう表現するかというヒントになりました。1日を通して、新たに色々な方たちとつながったり、『学び合い』についての考えを対話できたことが、何よりのことでした。

■日曜日を使ってこのような会に参加される先生たちは、素敵なお人柄が多いです。たくさんの方のエネルギーをもらいました。

■そして、上越に引き続き、このような機会を許してくれた家族に感謝です。お土産も貰ったし、明日からまた家事頑張ろう。ありがとうございます。

■素晴らしい授業を見させていただき、ありがとうございます。自分が学んだことを、相手に伝えてわかってもらってとても難しいことだけれど、これからは自信をもってたくさんの方の幸せを生んでくださいます。

■生徒が前向きに取り組む姿、後ろ向きな人、つまづいている人にそっと寄り添う生徒の姿、机間指導の中で生徒に優しく寄り添う先生方の姿、どれも今後の参考にしたい姿ばかりでした。これからも『学び合い』を共に頑張る仲間としてよろしくお祈りします。

■今日は佐賀市の東与賀中へ。

■今日感じたこと

① 東与賀中の子どもたちの学びを楽しんでる姿、自然に息を吐くように学んでる雰囲気、それが印象的だった。

② クラス、教科でも子どもたちは普段から学んでいて、子どもたちで色んな関係が築かれていることが伝わってきた。

■午後には「私たちの『学び合い』のホンネ」と題して生徒会による、アンケートの結果や質問への回答の時間から始まった。寄せられた質問に生徒達が答えていく時間では、聞いてる私たちも頷かされた、感心させられるような答えが次々出た。

■「先生方への要望はありますか？」という質問には、「3学年合同の『学び合い』をしてみたい。1、2年生に教えることで3年生は受験勉強になるし、何より学年を超えて関係が出来ると思う。是非やってみたい。」と答えていて、子どもたちからこんな言葉が出ることは、とんでもない。生徒に役割を与え、活躍する場を設定し、認めていく。そうすると大人でも思いつかない、まさに化学反応が起きると貞包先生は話していた。聞いたことのある言葉の意味が腑に落ちた気がする。



# Higashiyoka Junior High School



みかすみ

This is School

11/19 (日)

## 面公開授業『学び合い』

## 『学び合い』

■学年が上がるにつれて、より良く『学び合い』自分の、そして仲間の中身の濃い学びを作り出していることが分かりました。ますます充実した学校生活を送ってください。

■先生方の歩みを止めない『学び合い』の取り組みが確実に生徒たちにしみ込んでいることを感じました。校長先生の立ち振る舞いから学ばせていただくことも多かったです。ありがとうございました。

■生徒の皆さんの学び合う姿に教師としての生き方の「勇気」をいただきました。大分からやってきて十分満足させてもらいました。

■このような取組をなされた校長先生の生き方に再び感動させられ、感謝の気持ちです。ありがとうございました。

■グループ活動で積極的に話し合いをおこなったり、理解できないところをそのままにせず、質問している姿勢がとても良かったです。参観の先生方とすれ違ったときにしっかりとあいさつができていたのも素晴らしいと思いました。

■異教科合同、とても勉強になりました。自分の知る中学校の授業よりも数倍アップグレードしていき終始驚かされました。これからのますますのご研鑽を応援しております。

■ぜひ東与賀中学校の『学び合い』の伝統を下級生や小学生の皆さんにも伝えてください。そのために異年齢の『学び合い』を頑張ってください。

■将来の学校の姿を見ることができました。夢と希望を頂いたことに心から感謝します。ありがとうございました。



■「お祭り、ではない」大移動  
2日目、佐賀で

文化の浸透度、注目の高さ度  
人そのものの魅力度、どれもこれも、さほどドキドキはしないので済むようになったが、伝わってくる『さ』は、全身で体感した。

生徒たちのこれからが、また気になる。「一回のお祭りとして満足しない、ここがピークではなく、ここからで、生徒ともども、東与賀の先生がおっしゃったことが、本当に先を見据えた、精進し続ける姿勢だと、今日一番ふるえた。

先をみすえて、言葉を自分の言葉に再定義して、落とし込んでから自分の言葉で話す人、自分の力を過信せず、且つ卑下しない人、結果をすぐに求めないが、絶対に求めている人、先を行く人たちの共通点の一部を、垣間見させていたのだ。あ、佐賀は、佐賀に集まった方々は、すごいです！

東与賀中学校の皆さま方、ご参加されていた皆さま、学ばせていただき、お世話になりました。本当にありがとうございました。校長先生、名前を覚えてもらえ、嬉しかったです！



## 参観した教師に勇気と希望を与えた東与賀中学生徒は「すごい！」

が人に教えることで自分がわかってなかったことに気づいて、パズルのピースがハマっていくように自分の理解が深まるのが実感できた。そして授業を振り返ること、子どもたちと相談して授業を作っていくこと、授業のねらいを生徒の意味理解を伴ったものにするなどの重要性など、長年積み重ねられてきた川西先生の考えを聞いて有意義な時間だった。

大西先生とは Twitter など何度かお話ししたこともあったが、大西先生の爽やかさと内に秘めたアツい気持ち、そして大西先生が『学び合い』が確信に変わったエピソードは、こころに一番感動した。そして大西先生のおっしゃるような自分がなぜ『学び合い』を始めたのか、それを続けているのか、何を目指しているのかをもう1回考え直そうと思った。

そして、何より貞包先生、北海道から飛び込んできたこの私を「かんちゃん」と呼んでくださり、歓待してくださったことや、管理職として『何をしていくか』というお話を聞いて人としての器や懐の広さを実感した。

特に印象に残った御三方に共通しているのは覚悟なのかなあと思う。自分は『学び合い』を通してこうしたい！目の前の子どもたちにもこうなってほしい！全国に『学び合い』が広まると、子どもたちや先生方が幸せになつて欲しい！という強い思いとそれを実現して継続する覚悟がドッシリあって、腹の底に据えた覚悟があるからこそ発展したり深められたりするのかなあと思う。

とにかく学びが多く、色んな方と実際に会ってお話できて幸せすぎる時間でした。北海道から飛び込みで来た私を歓迎して下さい、本当にありがとうございました！今後ともよろしくお願ひします！

■東与賀中の振り返りマニエ  
継続し続けられる人の覚悟  
公開授業の後は佐賀市教委の手島先生、佐賀きつての社会科の実践者らしく、もっとお話したかった、( )による講演会や、川西先生、大西先生、永山先生らによるワークショップがあった。川西先生による6分の模擬授業では生徒の立場で参加してみても、「相手に説明して教えること」「分からない人と繋がること」のメッセージを感じた。要は説明を聞いて分かったつもりだったのに気づいて、パズルのピースがハマっていくように自分の理解が深まるのが実感できた。そして授業を振り返ること、子どもたちと相談して授業を作っていくこと、授業のねらいを生徒の意味理解を伴ったものにするなどの重要性など、長年積み重ねられてきた川西先生の考えを聞いて有意義な時間だった。



# Higashiyoka Junior High School

## 面公開授業『学び合い』

みかスポ

This is School

11/19 (日)

■先週の佐賀での経験を踏まえて自分の中で変わったこと

① 困ったことを素直に子どもたちに話せるようになったこと

以前もこの手のことは意識していたが、以前よりも素直に、より自然に話せるようになった気がする。以前は子供たち以外の色んな人に困ったことを話していたが(それももちろん大事なこともんだけど)、それよりも目の前の子ども達に相談して一緒に考えて力を借りながらやっていく方がいい。自分がすごい！と思う先生はそれができてる。佐賀で直接的にこの話を聞いた訳では無いが、教室の雰囲気やそこで話をした人から学びとれたんだと思う。

② 学ぶこと、人と繋がることの有用性自分の行動や考えることが変われば教室で話す言葉も必ず変わってくる。自分から飛び込んで学ぶことで気づけることも多かったし、何より色んな人とつながることが出来た。そこで学んだことを自分の実感として子どもたちに話した。面白いもので、自分の実感が伴った話って子どもたちにスッと話せて、子どもたちもいい反応をしてくれる。これからは学ぶことを続けたい。

■「初めて行く全校『学び合い』」の授業見学会「佐賀」

初めの全校『学び合い』の授業を見学させていたいただきました。

上越教育大学に来て初めて『学び合い』を知ったが、授業＝一斉授業と思っていた

し、学生時代もそういうものだと思っていたので、『学び合い』に対しては疑心暗鬼であった。そんな中、今回の『学び合い』の授業で生の生徒の姿をみた。自分から動き回る子、他の子に教わってわかった時の笑顔、どれも全てかけがえのないものだと感じた。

自分1人だけの学習にはやはり限界がある。そこに他者からの視点を加えることによって、本人にとって刺激になるのかも知れない。子どもたちはやるべきことは最初からわかっている。しかし、何かと比較した場合、楽や楽しいを優先してしまう。しかし、今回の『学び合い』の授業では、生徒たちがそれそのものを楽しいと感じているため、授業内容を話し合うことを優先する。教師はそれを『語り』で子どもたちの心に働きかけなければならぬと感じた。『語り』が十分であると、子どもたちには響かないし、なぜ『学び合い』で授業をするのか意味がわからない。それ子どもたちは動かない。大人も動かないかもしれない。

今回の見学会で、『学び合い』に大事なものは、明確な目標と目的や活動内容もあるが、『語り』とだけ実践したかの『時間』なのではないかと考えた。

まだまだ現場に立つたことのない一院生なので、現場で働かれている方々よりも得たこと感じたこと学んだことは少なにかもしれない。経験値がないので……

しかし、今のうちから現場を少しでも知ることの意味があるのではないかと私はそう考えて今後このような会に出ようかと思う。



正しいかどうかはわからないが……最後に、本日たくさんの方々とお話し、交流させていただきました。失礼になるかもしれませんが、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。

皆様からたくさん学べました。■つまりは、こうなのでしょか。そればかりを考えながら授業を参観させていただきました。一斉授業ではグループにしても、なかなか対話から



教師が意図するまゝめが得られないと感じながら合せて、グループ学習としても、そのグループでリーダーシップを取る子の意見にグループ員が流されてしまいます。『も』し、この子とあの子がさっきケンカしていたら、話し合い、教え合いどころではないだろうとも感じました。

ましてその授業、教科が苦手な子ばかりがそのグループに集まっていたら高まりは難しいと思います。そんな中で、『みんな仲良く』と言ったり、『勉強するときはちゃんと勉強しない』と言ったりして、子どもたちに無理を言っている教師としての自分に少なくともこれではいけない。とあらためて思い知ることができました。

本来は、子どものやる気を与えるのは先生なのに、生徒からやる気をもらうとは思いませんでした。東与賀中学校の生徒さんたちは、全国の先生たちに理想的な授業、理想的なクラス、学校と示されたと強く感じています。ありがとうございます。



■思考を停止させないことの重要性を感じました。私も授業中に、生徒がノートをとっているのに、『はい、ちよつと注目。』と言ったり、話し合いをしているのに、『はい、ちよつと聞いて。』と言ったりして、せっかくの活動を停止させていることに気づきました。まずは、ここから気を付けていきたいと思います。できれば普段の授業も参観させていただければ、と思います。ありがとうございます。



# Higashiyoka Junior High School



みかすぽ

This is School

11/19 (日)

## 面公開授業『学び合い』

■佐賀県の東与賀中での学び①・・・東与賀中で学んだことを、記録していきます。まずは、授業参観から・・・2コマの授業を参観。主に、社会の合同

『学び合い』と数学と理科の、異教科『学び合い』を主に参観。社会の授業では、最初先生の方から、「今日のニュースについて2〜3名の生徒からトピックを拾い、そこから深掘り。その後本日の課題を提示。その時間は5分以内で終わり、学び合いが開始。生徒たちは、グループを作って課題を進めていました。グループ編成が、最初は、2〜3名が多く感じましたが、いつの間にか、4名〜6名のグループも多くなっていました。資料の見方を説明してたり、まとめかたについて話をしていたり、・・・とにかく課題に答えるために取り組んでいました。

次の数学と理科の授業では、それぞれの教科の先生が、目当ての説明。その時間5分程度で学び合いが開始されました。個人的には、それぞれ自分の課題をやるから、中々動きが出ないんじゃないかなあと予想していたら、そんなことはなく、すぐにそれぞれが移動し始めました。

はじめは理科だけ、数学だけでやっていた生徒が多く感じましたが、ちよつと時間が過ぎると、段々ところちやませになって、数学やりながら理科をやっていました。

これには、生徒の順応性に驚きました。また、課題の量は、少ないかなあと思っていました。『説明をする』ので時間的にも問題なく、ちよつどい感じでした。そして、最後の5分くらいでは、理科は小テスト、数学は振り返りを行っていました。

ふたつの授業を見てみて、子どもたちは、一人ぼっちで何もしていないという生徒がいまませんでした。そして、学ぶことを楽しんでいるなあと感じました。そういう土壌をつくっている一つの要素が「教員」なんだと思うなあ・・・、そんなことを考えました。

振りかえりの語りが、「教科のこと」よりも、「自分が頑張ったこと、全体で何ができたか」ということや、「課題が終わらなかったその理由は何だろう？」社会では、時間内に終わらせる能力も必要といった、「人との関わり方」についての内容のもの、つまり、「誰一人として見捨てない」という目的が共有されているんですね。

また、時間を短縮するために、めあての板書、資料やワークシートを事前に配布するなどの工夫もされていたこと。授業の流れの提示。授業のまとめの代わりに、「振り返りシート」を2つの側面①教科のこと②学び方のことで、書かせていました。「語り」と同じような項目でした。これは、自分との対話ができるので、効果的でありますね。そして「声」のトーンというか、強弱少しゆつくり目だと、聞きやすいという事が分かりました。

参観中、私は『学び合い』中の、生徒の様子を見ながら、でも、いろんな先生と対話をしていました。授業者の数学の先生とお話をさせてもらいました。合同学び合いの頻度、ワークシートの課題の量等・・・。また、はじめに『学び合い』の授業を参観された先生とお話をする機会がありました。やはり「教えない」という事へのひっかかり、また、教師は何をしているのか？という疑問がありました。いざ自分がやろうとしたときできるかどうか不安・・・と答えていたことが印象的でした。

このように、実際に参観することで、授業のサンプルが自分の中に作られました。これで、少し客観的に自分の授業を振り返ることができそうです。ありがとうございました。

■佐賀県の東与賀中での学び②・・・次は、佐賀市教育委員会の手島将之先生の講話がありました。先生は、新採1年目から実践された先生だそうです。とても聞きやすく、そして、内容が整理されており、自分なりの問題意識が明確になりました。

自分としては、「対話の必然性を感じる課題設定」という内容について、今の自分の教科の課題と照らし合わせるのと、「対話の必然性」を感じるかなあと考えさせられました。このことは次のワークシoppにつながるわけです。気になった内容をまとめました。

○4月から11月の期間、学校訪問して、「先生」から「先生たち」へメッセージを感じるようになり、先生たちが生

## い



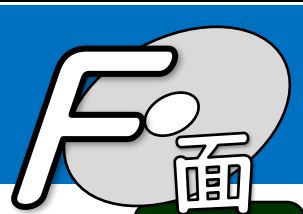
徒に価値を伝え続けていることで、生徒たちの会話が教材から子どもたちの姿に変わったということ。それは、「集団へ求める語り」や「目標設定、課題づくり、活動支援、評価といった学習環境整備」ということ。さらに、生徒たちがメリッと感じるようになった。そのような変化を感じたようです。

○個別最適な学びと協同的な学びをする「子ども集団を育てる」ためには、前提条件として①時間を確保する②裁量を与える③課題を達成した姿が分かるということ。これがないと、必然性を感じる協働はうまくいかないのではないかと、①②③を確保するための、開始の前の準備・学習内容の説明・課題提示は10分以内・学習活動（30分前後）振り返り（10分）授業後にフォローアップという、ある程度の流れをつくっておくのもあり。②子どもが自分で評価ができるだけでなく、対話の必然性を感じる課題設定が必要だということ。課題を達成した姿がわかるために、「を説明できる」のようなアウトプット型の述語にかえることで、動きが出てくる。また、対象を明示すること。課題設定の仕方として、「を説明する。方法を2つ述べる」など、よりシンプルにかつ、求めることは明確にする。そして、「3人以上に





# Higashiyoka Junior High School



みかスポ

This is School

11/19 (日)

## 面公開授業

## 『学び合い』

■【佐賀県の東与賀中での学び③】  
先日の日曜日に訪問した、佐賀県の東与賀中での学びその③です  
『学び合い』ワークシートのつくり方に参加しました。

午後は、『学び合い』のワークショップが用意されていました。4つのグループから一つ選んで参加。個人的には、全ての場所に行きたかったのですが、『数学』という独自性と、『自分の職場で他の先生の先生へ『学び合い』と伝えるアイテムとして『ワークシート』を活用したい、という思いもあつたので、『学び合い』ワークシートづくりに参加しました。

講師の先生は、東与賀中学校の隣の中学校の先生。自己紹介も兼ねて、『学び合い』との出会いについて話がありました。『子どもたちの人生に良い影響を与える教師でありたい』という思いを持ち、教材研究を行っていた時があった。でも、必死に教材研究をした結果、『全ての生徒に対して課題は

フィットしない』『いい課題と思っただけでも、それは大人基準』『個に応じた宿題を出しても、与えられたもの』という課題が出てきた。その課題を解決するために『学び合い』と出会い、『子どもたちの人生をよくしたい』という思いで、授業を作っていくことになった。『学び合い』という条件が加わると、ワークシートの『めあて』に私の意図が入っていた方が、教員に依存しやすくなるな、ということに気づきました。おそろしく、発表された先生も、多様な方法で、多数の人と何回も試した結果、今の自分が使っているワークシートになったんだらうな。……。

フットしない』『いい課題と思っただけでも、それは大人基準』『個に応じた宿題を出しても、与えられたもの』という課題が出てきた。その課題を解決するために『学び合い』と出会い、『子どもたちの人生をよくしたい』という思いで、授業を作っていくことになった。『学び合い』という条件が加わると、ワークシートの『めあて』に私の意図が入っていた方が、教員に依存しやすくなるな、ということに気づきました。おそろしく、発表された先生も、多様な方法で、多数の人と何回も試した結果、今の自分が使っているワークシートになったんだらうな。……。

でも、中長期的に今の職場で『学び合い』を普及するには、『数学』の教科からやるのが手取り早い。そのためにも、まず『その教材をどう解釈するか』というところを、教科の先生と対話をしていこうと思いました。

■小学校に勤務している者です。個別最適化教育や協働型の教育活動という言葉をよく耳にするようになりました。しかし、授業では、発問の工夫をしたり、グループ活動を多く取り入れたりの現在の状況で、これでは、すべての子どもたちが『分かる』『できる』となりません。どうしたものかと、この数年悩んでいました。『学び合い』の授業手法を知り、そんな折に貴校で公開授業をされると聞き、参観させていただきました。目からうろこはこのことなのでしようか。少なくとも小学校高学年であれば、算数と社会からできるような気がしました。ありがとうございます。

■確かに、ここまで毎時間のように対話する時間が授業で保障されれば、無駄話があつたとしても、個々の関係はよくなるのだらうと感じました。



講師の先生は、東与賀中学校の隣の中学校の先生。自己紹介も兼ねて、『学び合い』との出会いについて話がありました。『子どもたちの人生に良い影響を与える教師でありたい』という思いを持ち、教材研究を行っていた時があった。でも、必死に教材研究をした結果、『全ての生徒に対して課題は



また、居心地の良さも感じられれば、子どもたちにとつての本来的な学校の姿と言えようような気がしました。午後のワークショップ前の生徒会の本音トークも素晴らしいと思いました。私たち教員は、指示指導をするだけでなく、できることになるとを期待してしまいます。しかし、東与賀中の生徒アンケートをみてもらうのではないことに気が付きました。





# Higashiyoka Junior High School



ミカンスポ

This is School

11/19 (日)

## 面公開授業『学び合い』

■「佐賀県の東与賀中での学び(終)・・・」  
先週の日曜日に参観した佐賀県の東与賀中。あつという間に1週間が経ちました。はやいものですね。その学びの最後です。  
お昼が終わって、ワークシヨップ前に生徒会ラゼン『学び合い』私たちの本音』ということで、生徒会のメンバーから生の声を聞くことができました。  
最初は、生徒たちが『学び合い』のことをどう思っているのかということ、中学1年生から3年生にアンケートをとり、その報告、数学を使って提示をしているので説得力があります。  
『学び合い』が、『好き』な生徒、『嫌い』な生徒はもちろんです。生徒集団として受け入れられているということがよくわかりました。そして、良い面だけでなく、課題もしっかりと提示されていました。  
○あいまいな理解で終わっている人がいる  
○孤独を感じている人がいる  
○学び合いのつながり、広がりが遅い  
○予習が足りないところ  
○「やっける風」みたいな人もまだいる  
そして、「二人も見捨てない」ということを、学級、学年、学校で行い、だれもが安心して学校生活を送り、みんなが、仲ひる、高まる学び合いにレベルアップするために日々の学び合いを大切にしていきたい、というビジョンを話してくれました。生徒自身が『学び合い』の良さを実感しているということが、この生徒会の対応でよくわかりました。  
次に、生徒会のメンバーが100人以上を超える教員の前で、その場



で出た質問に答える機会が設定されました。先生たちが語る研究紀要ではなく、子どもたちが本音で語ることが、研究紀要の代わりにするということ、が学校づくりの一つになるという考えのもと、貞包校長先生がファシリテーターで行いました。  
子どもに出番を与え、役割を認識させて、できたことをきちんと承認をする。・・・できたから「いい」ではなく、ちよつとランクを上げて、子どもを鍛えるという指導・・・この指導を「開発的生徒指導」という・・・を狙っていたという事のように。もう、生徒たちが堂々と答えていたことに、ただただ感心して聞いていました。  
この1日の東与賀中学校の公開を参観して、学校全体で『学び合い』をするには、校長の「リーダーシップ」や「ビジョン」が必要であるというところ。それがあがるから、職員集団が『学び合い』の良さを共有し、納得しているから、生徒にも伝えることができるということ。もちろん個々の先生での考え方はそれぞれあるけれど、少なくとも「二人も見捨てない」という集団は「得」であることを、共有できているんじゃないかと感じました。まあ、自分が目指す教育について、「できない」とあきらめるのではなく、自分の立場でできることは何かを、仲間を増やして、仲間頼って地道にやっていくことが王道だとも思いました。  
たった1日でしたが、私が知らない世界を体験したおかげで、迷いかなり減りました。そして、新たな縁もできたことに感謝です。ありがとうございました。

